

このページではみぬま見聞館(太宮南部浄化センター)のトピックスを紹介をします。

「ゴイサギ」と「ホシゴイ」は・・・(3月に自然庭園で観察できる動植物について)

日差しが暖くなり、新緑も待ち遠しい季節になりました。

今月は、昼間だと首が無いように見える不思議な感じのサギの仲間「ゴイサギ」を紹介させていただきます。

「ゴイサギ」はペリカン目サギ科に分類され、サギの中では中型ですが、それでも体長60センチメートル程の大きさがあり、中々の迫力があります。外見も目を引き、ずんぐりとしたボディはペンギンに似ているかもしれません。そして、頭から背中が青みがかった黒色で羽はグレー、赤い目を持ち、後頭部には長めの冠羽があります。

さらにこの「ゴイサギ」は、幼鳥も他のサギとは違い、ボディのカタチこそ親鳥に似ていますが、カラダは灰色がかった褐色に白っぽい斑点が全身にあり、親鳥とは違う鳥かと思うほどで、別名「ホシゴイ」と言われています。

みぬま見聞館付近で見られるコサギやダイサギなど「シラサギ」の仲間や「アオサギ」は昼間に見かけることが多いかと思いますが、

「ゴイサギ」は夜行性で、昼間は身を隠して体を休めているので、あまり見かけていないような気がします。

夜空を飛ぶときに「クワークワー」と鳴くため、「夜鳥(ヨガラス)」と呼ばれることもあるそうです。

「ゴイサギ」の名前の由来は、平家物語に出てくる逸話によるようで、醍醐天皇が庭にいたサギを家来に捕まえるよう命じた際に、大人しく捕まった様子に感心し、「五位」の位を授けたことからとされています。「五位」は、宮中に参内できるほど、けっこうエライくらいのようなので、驚きます。

今年もみぬま見聞館の自然庭園や敷地の脇を流れる芝川では、たくさんの野鳥が見られます。

先日みぬま見聞館主催の野鳥観察会が開催され、多くの方にご参加いただきましたが、2時間ほどの観察でゴイサギはもちろん、カワセミやタシギ、ダイサギやアオサギなど20種類以上の野鳥に出会うことができました。

みぬま見聞館付近では、埼玉県のレッドデータブックでは準絶滅危惧種とされているオオバンが多い日には50～80羽ほど集まり賑やかな鳴き声を響かせているほか、例年になくダイサギやアオサギ、そしてゴイサギなどサギ類が多く見受けられます。サギ類は自然庭園にも、ときどき顔を見せることもあります。

そんな野鳥たちの観察や、サンシュユやボケ、早咲きの桜も咲き始めるであろう自然庭園で一足早い春を感じに、来てみませんか。

皆様のお越しをお待ちしています。



ゴイサギ

ペンギンに似ています！？



ホシゴイ

親鳥とはかなり違う模様ですね



昼間のよくあるゴイサギの様子
夜行性なので隠れて寝たり、ボーっとしています



自然庭園脇の芝川の様子
ここ何年もオオバンがたくさん集まります



アオサギとオオバン
今年はオオバンとサギ類、カワウが多く見られます



コサギとダイサギ
名前の通り、大きさの違いがわかります



ダイサギ
羽根を広げて飛ぶ姿は迫力があります



ホオジロ
自然庭園や芝川でよく見かけます



コゲラ
小さなキツツキが必死に木をつついてます



キジのオス
鮮やかな色彩の国鳥はやはり目を引きます